

さいたま市教育委員会指定管理者審査選定委員会議事概要

- 1 日時 平成29年10月5日(木) 14時00分～16時00分
- 2 会場 本庁舎9階教育委員会室
- 3 出席者 (委員) 山本委員長、中川委員、清水委員、縣委員、久保田委員、矢部委員、竹居委員
(所管課) さいたま市青少年宇宙科学館
(事務局) 教育総務課
- 4 欠席者 なし
- 5 諮問内容と答申結果

以下の施設の指定管理者候補案について諮問を受け、次のとおり答申した。

施設名称	施設数	募集方法	指定期間	申請団体(◎が候補者)
さいたま市宇宙劇場	1	公募	平成30年4月1日～平成35年3月31日	◎株式会社五藤光学研究所 公益財団法人さいたま市文化振興事業団

6 議事要旨

指定管理者の候補者案の選定について

公募の結果、2者から応募があった。提出された事業計画書等に基づき、申請者によるプレゼンテーション及び各委員からの質疑等を行った後、指定管理者候補者案についての審査を行った。

【株式会社五藤光学研究所に対する質疑】

Q：総利用者数の年間目標が示されているが、今までと比べてどれくらい変わるのか。

A：プラネタリウムは現状の平均から1割、また、集会室等の貸出しは約5%増やす計画だが、最新の利用者数に基づいて常に高い数値を設定していきたい。

Q：地域との関わりについてはどのように考えているか。

A：出張観望会やワークショップを設定したのは地域の方とつながるきっかけ作りをしたいというのが理由の一つである。市内の各社会教育施設などには、協働を訴えてパートナーをしっかりと獲得していきたい。

Q：この活動に対して関心をもっている市民の方や研究者等とはどう連携していくのか。

A：展示コーナーにおいてアウトリーチコーナーや市民協働のコーナーを設ける等、宇宙劇場を市民活動の発表や自己実現の場として使っていただきたいと考えている。また、市民協働の特別投影として、宇宙劇場のスタッフと市民団体の方等とでコラボした特別投影も考えられると思っており、そのような開けた運用をしていきたい。

Q：人件費が約71%、事業費が約17%だが、この割合はどう考えているのか。

A：人件費はかなり高額だが、例えば委託業務等もできるだけ自社でやっていくという方針であり、人員を重視している。

Q：事業費が全体の17%ということで、これでいろいろな事業はやっていけるのか。

A：プラネタリウムメーカー、映像プロダクション、施設運営といった3部門を一体化で行っているため、事業費や施設の管理費を圧縮できる。

Q：自主事業の企画は例示としてではなく実際に行う計画か。

A：これらは全て実際に宇宙劇場で実施する具体的な計画として掲載させていただいた。

Q：地域支援業務の予算はどちらに計上しているのか。

A：事業費の中のソフト制作代に計上している。

Q：人件費について、正社員9名ということだが、採算性が悪いということであれば途中で減らすことはあるのか。

A：基本的にはそのメンバーであれば仕様をこなせるということで人数を提示しているので、実際に削減するということは事情が変わらない限り現時点では考えていない。

Q：利用料金が5年間ずっと一緒だが、利用者が増えないということか。

A：数字としては同じだが、実際に運用する中で常に高みを目指し、集客について努力していきたいと考えている。ただ、運営の実績、経験からあまり大きな数字を入れられるものではないと十分に理解して記載をさせていただいた。

Q：今の宇宙劇場の印象や気になったことがあれば教えてほしい。

A：様々な番組やショップがあるが、もう少し職員の顔が見られたり、何か触れ合いがあったりすると駅前の好立地で人が気軽に寄っていただける部分もあるかと思う。広報の戦略としては、SNSやネットもより活用することができると思う。

Q：貸館利用率5%アップという目標について、どのような方策で5%アップしようと考えているのか。

A：利用者にアンケートを取り、どうしたらもっと利用しやすいかという声を集めたいと考えている。以前利用していたが利用をやめてしまった方を再度呼び戻せるよう課題を解決し、変わりましたということを発信していきたい。

Q：機器の貸与は考えていないのか。

A：もし要望があれば整備して、より利用しやすいようにすることを考えている。

Q：英語の字幕や英語番組をやっていただけるとのことだが、生のプラネタリウム解説を英語でやることはあるか。

A：英語ナレーションを吹き替えた番組を想定しているが、これまでも英語ができるスタッフがいた施設では生の英語で上映した経験もあるので、是非チャレンジしていきたい。

Q：今回そういうことができるスタッフが入っているという想定でよろしいか。

A：これからの雇用ではあるが、外国語や手話ができるスタッフを積極的に採用したいと思っている。

Q：仕様書の中に他市町村のプラネタリウム施設での勤務経験者という条件があるが、どういうキャリアの方を雇用していこうと思っているか。

A：仕様の内容に加え、施設運営を統括できることが要であり、ミュージアムマネジメントを実践し各専門スタッフを生かす人材が必要だと考えている。

Q：それには資格が必要か。

A：資格ではなく、他の施設も含めてそういう手法で運営をしているので、そういった管理者研修等に力を入れている。

Q：仙台市の台長さんの講演会を企画されているが、その方だけが毎月来るのか。

A：現時点で確実性があるもののみ提示させてもらっているが、仙台市で行っている企画も

台長が仕切っているものの、テーマ、時節に合わせて必要な方をゲストとして呼んだり、全く異業種の方にお問い合わせしたりもしており、柔軟に行っていくことを考えている。

Q：プラネタリウムの集客率を上げるということで顧客の分類や番組枠も4つに分けているが、これから御社が取り組まれる中でどこの部分が利用者数の増加につながると考えているか。

A：対象別に「こどもの時間」と「星空の時間」をはっきり分けるということが最も利用者数の増加につながると考えている。プラネタリウムは前半に星空の生解説、後半に映画というスタイルが多いが、はっきりと対象を分けることによって、実績として、土日の「こどもの時間」が認知されるとそこを目指してファミリーの方が訪れたり、「星空の時間」をすることで、プラネタリウムは子供向けだと思っていたお客様が戻って来たりしている。また、「星空の時間」は全て生解説で我々がいわゆるプラネタリウムのハイブリッドのプログラムを組んでシミュレーションをしてお話するので、専門員による生解説の魅力ということでファンやリピーターが増える要因になると考えている。

Q：現在も生解説を行っているが、それとの差別化はどう考えているか。

A：スタッフについて、常勤の正規職員、専門の学芸員や教員の資格を持った者が担当することで、より柔軟に自分たちで番組を作り市民のニーズに即座に対応させることができる。また、我々はメーカー、プロダクションとしてその職員に様々な研修、スキルアップをすることができる。

【公益財団法人さいたま市文化振興事業団に対する質疑】

Q：宇宙劇場の入館者数の目標数値は。

A：現在、プラネタリウムでは年間5万人前後の入館者数だが、通常リニューアルした年は多いがその後減少するという傾向があるところ、今回提案した高齢者向け、小さいお子様連れの御家庭向けの提案をすることで、年間1%ずつの入場者数増を目標に計画を立てており、引き続き5万人+ α を考えている。

Q：今までの経験を活かしてという御提案だが、今までと変えるところを具体的に教えてほしい。

A：これまでほとんど行っていなかった高齢者向けのものを行ったり、また、子育て世代はお子さん泣くことが心配で入りにくいということがアンケートでわかったので、例えば泣いてもお互い様という投影をしたり、その時間だけ託児をしたりといった計画をしている。

Q：博物館との連携ということで、近くにある鉄道博物館との連携は考えているか。

A：スタンプラリーという形で市内の博物館等をめぐって何らかのメリットがあるような提案をしていきたい。

Q：常勤職員が6人ということで、アウトリーチの部分がかなりできてくると思うが、学校と連携し展望会を行うということ以外に計画しているものはあるか。

A：例えば土曜チャレンジスクールに招かれて出張授業をしたりといったアウトリーチも考えている。

Q：オリンピックがあるが、インバウンドということで英語の生解説や英語の番組は

考えているか。

A：今後英語で解説できるような番組を作りたいと考えている。また、全天周ドーム映像は海外の作品も多いのでそちらは工夫次第で2か国語の投影ができると考えている。

Q：今回映写機が新しくなり今後いろいろ映写する内容や生解説が変わると思うが、新しくどういったところに力を入れていきたいか。

A：ドーム全体にわたって動画を流せるようになったので、例えばビッグバン等の映像を流す等お客様がリアルな体験ができるようになったということを活かした投影をしていきたい。その際には、お客様は、今見える星空について、星の名前や、星座の神話、日本での呼び名等そういった基本的な情報を求めてもいるので、基本的な部分は押さえた上で、提供していきたい。

Q：研修の中でサービスレベルを向上させるということで接客マナー研修を行うということだが、どういったことを具体的に考えているか。

A：当団体では毎年民間の講師にお願いし、挨拶の仕方、お金の受け渡し等の基本的なところやお客様のクレーム対応等の研修を行っており、職員全員に受講させている。

Q：この事業のPDCAサイクルはどう考えているか。新しい企画等色々説明していただいたが、そういうものの指標をどのように作るのか教えてほしい。

A：今回の事業に限らず全ての事業に関して、事業後必ずお客様にアンケート調査を実施して満足度調査をしており、満足が得られなかった理由を入手して、それを翌年度の事業計画に活かすということを予定している。

Q：それに付け加えて、高齢者向けの番組を作るときにその指標をどう作り、その番組の評価をどう進めていくのか。

A：高齢者向けは今まで実施していなかったが、さいたま市で行っている高齢者の市民大学講座があり、その方々にプラネタリウム解説を生解説で実施し、アンケートを行うことで翌年度以降の改善につなげていこうと考えている。

Q：宇宙劇場は、地域の文化的な活動や教育活動のコアとして今まで機能してきたと思うが、サードプレイスとして市民がここに集う上でどういう戦略をお持ちか。

A：プラネタリウム投影講座や望遠鏡の操作講座を行ったりして「さいたま星天の会」や「さいたまプラネタリウムクリエイト」といったグループの人数を増やしていく等、より多くの方々に運営を含めて関わっていただければと思っている。

Q：今までの活動を通じてさいたま市民にどういったことを寄与できたか、また、不十分な点があったとしたら今後どこを目指したいか。

A：学習投影ということで小中学生が見学に来るが、その結果大人になってからプラネタリウムをまた見に来る方がおり、その方々がさらに子供やお孫さんを連れてきてといった形で寄与できたのではないかと考えている。その流れを引き続き強化していきたい。また、今まで例えば夏休みだと子供向けしか投影をやっていないという御批判を受けたこともあり、夏休みに高齢者向けの投影等も行ったりして対象が家族連れだけではないということアピールしていきたい。

Q：プラネタリウムが学習投影で利用されてきたさいたま市と、そうでない市町村との間で、学習効果のエビデンスとなるような、理科の学力調査結果等をお持ちか。

A：残念ながらこちらでは持っていない。

【結果】

さいたま市宇宙劇場の指定管理者に応募した2者を審査した結果、株式会社五藤光学研究所が1,418.8点、公益財団法人さいたま市文化振興事業団が1,339.0点となった。

現指定管理者の実績評価点を加点した結果、公益財団法人さいたま市文化振興事業団は1,374.0点となったが、最高得点は株式会社五藤光学研究所の1,418.8点であったため、株式会社五藤光学研究所を指定管理者候補者案として答申することを決定した。

＜採点結果＞

株式会社五藤光学研究所（候補者案） 1,750点満点中1,418.8点（最低制限基準60%を超える81.1%）

公益財団法人さいたま市文化振興事業団 1,750点満点中1,339.0点（最低制限基準60%を超える76.5%） 実績加算点 5点×7人＝35点 合計 1,374.0点

以上